

Northwestern memorial hospital

USA

中野穰太 先生

2017 年

Chicago にある Northwestern の中野穰太と申します。University of Chicago の北原先生よりこちらの blog への投稿をお願いされ、お初に書かせて頂きます。北原先生と同じ U of C の太田先生の深い内省の伴った post を前に何を書けば良いのだろうとしばし途方に暮れていましたが、この blog を読まれている海外特に US での研修、就職に興味がある若手？心臓外科の方に向け、あるいは、こちらに来る前のかつての自分に向けたつもりで書いてみようと思います。

## 時期

これは USMLE をいつ取得するかによって左右されると思われます。大きくは大学生の間にとる、日本での研修中にとる（かなり困難かも）、大学院の間（自分はこれでした）、あるいは研究留学の形で渡米後にという 4 パターンがあるようです。研修を始めるにあたっては Step 1, 2CK, 2CS の 3 つが必須ですが、後の事を考え自分は Step 3 まで取得してから渡米しました。今思うと大学生の間にとっておけばここまで回り道をする必要もなかったのかとも思わないでもないですが、日本での研修が身につかなかった、役に立たなかったわけでは決してないので、難しいところではあります。ちなみに自分は 39 歳で渡米しましたが、年齢不問というのは US の優れた点の一つであり、この間一緒に知り合った病理医の方も 40 代半ばで渡米されたとのことでした。若くして渡米することの merit は計り知れませんが、かと言って年齢を言い訳にして諦める必要もないように感じます。若くして渡米できた場合、resident からするというのも考えるべき選択肢の一つとなるのではないかと思います。正規の研修が始めることができれば、余程のことがない限り、US に残ることが約束されたも同義だからです。Residency に入ることの大変さはさて置き。

## 目的

一番の目的としてあるのは手術経験を積むということになるかと思います。施設によって、**attending surgeon** によってどれだけさせてもらえるかは変わって来るので注意が必要です。しかしもっと大事なのは自分の力量がどれだけあって、それを示すことができるかということだと思います。そういう意味で US に来る時期は、日本での研修との兼ね合いになると思います。**Attending** になって殊に思うことですが、できない人にはさせられない、できる人はより手術をさせるため更に手術が上手になるということです。あとこれは目的とは違いかもかもしれませんが、異文化に触れる、外から日本を見るということも経験してみないとわからないことでしょう。

## 場所

施設の情報を集めることは非常に大切です。個人的にはこのことに少し無頓着すぎたという反省があります。目的でも申しましたようにそれぞれの施設で手術ができる範囲に差があります。もちろん手術の **complexity** にも施設で差がありますが、初めから難しい症例をさせてもらえることは当然ありませんので、いきなりそういう症例ばかりの施設に行くのもまた考えた方が良くないかもしれません。また施設を選ぶにあたって、直接の競合となる **resident** や **fellow** がどれくらいいるのか、あるいは **advanced fellow** が自分の他にいるのかということも大事な要素となるでしょう。また既婚であった場合、まず家族が US に合うかどうか、その都市に合うか、日本人はいるか、日本食は入手しやすいかなども重要となります。自分は初め Utah 州の Salt Lake City にて研修しましたが、幸い大変親切な日本人の方々に助けてもらい、なんとか生活のスタートを無事きることができました。

また初めて US に来るにあたっては、こちらは日本と違った意味でコネ社会ゆえに、誰に **reference letter** を書いてもらえるか、どれだけ **research** の **background** があるかも採用されるかどうかに関わって来ると思います。

## 期間

これは人によってまちまちのようです。サクッと経験を積んで日本に戻るのであれば、2年でも良いでしょう。職を得るつもりならば、一般的には3年以上は研修をする必要があると思われます。北原先生のように超優秀であれば別のようなのですが。自分は Utah で 2年、

Northwestern で 2 年 advanced fellowship をしてから職を得ることができました。Advanced fellow (要は外国人部隊ということですね) の salary は 60-80k ですので、独り身でない場合は貯金との相談ということにもなると思います。特に子供がいた場合、pre-k や kindergarten などの費用も馬鹿になりませんし、NY や CA などでは住居費もものすごく高いと聞きます。田舎だといいかというと、車が移動に必須となりますので一概に安く済むというものでもありません。自分も渡米早々家内用と自分用に 2 台車を購入しました。

## 進路

もちろん自分の経験をもとにしか語れないので、advanced fellowship をした場合という前提で書きますが、US に残るか日本に戻るかということが最大の分岐点になるかと思います。自分は残りたかったので、Northwestern での 2 年目の研修が始まる前から行動を開始しました。具体的には多くの日本人が目指すように Columbia の門を叩きました。皆さんもご存知のように、Columbia では attending はもとより resident/fellow の質も高く、得られる手術経験の豊富さのみならず、多くの卒業生たちは US で職を得ていることから (太田先生もその一人ですね) 人気が高いのだと思います。しかし自分は Columbia にて更にもう 1 年研修できないか可能性を探りましたが、残念ながら採用には至りませんでした。さて困ったことになったなあと思っていましたが、その時に太田先生から指南いただいたのが、周りの人々に職を探していることをアピールすることだということでした。実際に attending 達にアピールもしましたし、CV も 50 近い施設に送りましたが、芳しい返事はもらえませんでした。しかし幸いその後 Northwestern の attending からこのまま残らないかと job offer をもらうことができ、職を得ることができました。

自分の知見、経験では、正規の道でない以上こうしたら職を得ることができるという正攻法はないということです。そういう意味では池上先生も先日書かれていたように、博打といてもいいかもしれませんが、自分で決められない以上、選択というのは正しい表現ではないのかもしれませんが。目指したけれど、いろいろな事情や運で日本に戻ることになるということもあるでしょうし、初めから日本に戻ることを前提という人もいるでしょう。個人的には US に残りたかったし、大変ではあるものの少なくとも challenge してみる価値はあると思います。

その後

さて attending になって 1 年ちょっとですが、直接の紹介はまだまだ少ないものの、とりあえず 1 年目の目標の手術件数は達成できましたし、成績も悪くなかったとほっとしつつ、また 2 年目、まだ 2 年目ということで気を引き締めているところです。Research も軌道に乗せていかないといけないし。個人的にはまだ O-1 visa なので、permanent residency も欲しいといったところでしょうか。また機会があればもう少し日常的な、実際的なことも書かせていただこうかとおもいつつ（州の license のことも）、太田、北原先生とも“長いし面白くもなんともない post やなあ”とぼやいている声が聞こえそうですが、初めてにて少し真面目に？書いて見ました。U of C と違い見学に来る人も少ない Northwestern ですが、興味がありましたら、いつでもご連絡ください（jotanakano アット gmail.com）。毎年 2-3 人の advanced fellow の枠があります（先日かくゆうじ君もこちらに post しましたね）。もれなく MC3 ring の McCarthy や Cox Maze の Cox にも会えます。